只見の吉津さんを訪ねて

練馬区　治田桂四郎

7月20日、21日と1泊2日で「田舎の政治」を書いた吉津さんの里を訪ねた。20日は日曜日で、9時50分に東武浅草駅の改札に集合した。平成維新東京のメンバーとその友達、知人で16人でした。リーダーは、梶原光恵さん（21世紀のライフスタイルを考える会特別委員会委員長）でした。

全員集合の後、自己紹介をして、10時10分発の会津田島行きに乗った。駅からは、送迎バスで高清水公園によって、ミニ湿原を散策して、ホテル「湯ら里」（自然に囲まれたゆったりした平屋の和風ホテル。但し、このホテルは、ウルガイラウンドの補助金で作られて赤字。吉津さんは、造る事に反対された）に4時についた。部屋で、千秋楽の相撲を見て、貴の花の優勝を確認してから、温泉に浸かった。6時から宴会で、ヤマメの塩焼きなどご馳走を食べながら、カラオケ抜きで、おしゃべり宴会を楽しんだ。

8時から、スナックで地元の渡辺恒三さんの後援会（恒志会）のメンバー十数人と政治談義を行った。各自ユニークな自己紹介のあと、都会と田舎の問題を取り上げて、ディスカッションした。私は、平成維新東京の代表として、会の事を説明して、情報公開が、もっとも大切な事を述べ、行財政改革では、公共投資が、無駄が多く、大問題である事を強調した。それに対して、恒志会のメンバー代表は、都会は、田舎から水（ダム）をとり、人をとった。田舎は、過疎で、公共事業なくして、生活が成り立たないし、また、都会が、田舎の為に、そのくらいの事をしても当然との意見であった。

梶原さんも現在の日本の危機を訴えたが、彼らは、危機など無く、来ないと主張した。噛み合わないうちに教育論も混ざり、諸説紛々のうちに11時の閉会となった。吉津さんは、地元では、ユニークな存在であえて、上記の場を設定したと思われる。いろいろ勉強になりました。

翌日は、10時にホテルを出て、吉津さんの経営する「たもかく」（只見木材加工組合）の事業のセコンドホウス販売と本と森の交換事業の現場案内を吉津さん自身の案内で、見てまわり、楽しみ、昼に、ホテルに戻った。美味しい手打ちソバをいただき、会津田島駅に向かった。2時過ぎの列車で発ち、5時頃に浅草についた。

ついでに参加したメンバーを紹介します。梶原さん、澤井さん（三井製薬）、大崎さん（ガラガラ日本）、加藤さん（大崎さんの友人）、佐藤夫妻（二人で、140歳）、小林さん（ユニークな先生）、森山（先生の友人でチバガイギー）、中村さん、岩崎さん（中村さんの友人）、江崎さん、梶原さんの義太夫仲間の内田さんと内田さんの彼氏の竹村さん（舞台芸術家）、松井さん、西田さん、私（エーザイ）の16人でした。このメンバーがガヤガヤ楽しくやったわけです。

私としては、楽しく、無事に帰ってこられた事を喜んでいる次第です。最後に、梶原さんが、21世紀のライフスタイルを考える会で、リーダーシップを発揮されている事に敬意を表して、感想文を終わります。

□□□